

1. ジェトロ、バングラで中小企業支援を強化

8/21、日本貿易振興機構(ジェトロ)は、バングラデシュで中小企業の海外展開を支援する「中小企業海外展開現地支援プラットフォーム」事業を開始した。労務や法務、税務などに関する専任のコーディネーター2人を配置し、無料で相談に応じる。同プラットフォームは首都ダッカに窓口が置かれ、ジェトロが在バングラデシュの日本大使館やダッカ日本商工会、国際協力機構(JICA)などと連携し、中小企業の問題解決に対応する。進出に向けたアドバイスや、進出後の出張相談、現地機関への取り次ぎなども手がける。

2. EPZ への投資、22%増

輸出加工地区(EPZs)の投資が前年度の比べ 2013-14 年度は 22.53%ほど急上昇した。バングラデシュ輸出加工地区当局(Bepza)によると、EPZ にある 428 の操業中のユニットは、昨年度、4 億 258 万ドルを投資を受け入れた。バングラデシュは南アジアの中でも第2の投資先国となっている。8つのEPZを動かしているBepzaは、輸出用の商品の製造のために、国内国外の会社からの投資を受け入れている。ダッカEPZは最高の1億2500万ドルの投資を受け、それにチッタゴンEPZが続き1億946万ドルを受け取った。残りの投資はアダムジー、コルノフリ、コミッタ、ウットラ、モンガラそしてイシュワルディのEPZが受け入れた。

3. 政治安定、輸入上昇

2012-13 年度の政情不安で失われた経済に対する自信が取りもどされ、2013-14 には輸入が著しく上昇した。バングラデシュ銀行によると、2013-14 年度に支払いをされたLCは16%上昇し、418 億 2 千万ドルとなった。L/C の開設も1年前に比べ15%上昇し371 億 9 千万ドルとなった。LCの支払いは2011-12 年度と比べて、2012-13 年度は7%以上のマイナス成長であった。今年度は、特に米と小麦の穀物、資本機械、工業原料、そして石油の輸入も成長した。

4. イードでインフレ現象

わが国最大の宗教祭イード・ウル・フイーワルに伴い出費が増え、インフレは7月に入り、6月の6.97%から7.04%となった。計画省では最新のインフレデータが公表され、計画大臣AHMモスタファ・カマルは、「イードを目前にして全国民が喜びに満ちて買い物をした。その結果インフレは少々上昇した」と語っている。今のところインフレは臨時的、一回限りの出来事として認識されているが、新会計年度の最初の月でのインフレの上昇は政府の自信を揺るがすものとなるかもしれない。政府は2014-15年度の目標を6%と設定している。中央銀行の最新の金融政策は7月の最後の週に発表された。これによると、もし年間にわたり危険が浮上しなければ、現在の会計年度はインフレは6.5%となるとしている。世界的に価格上昇している原油と食料が政府のインフレ目標の試金石となるであろう。

5. バングラ・インドに新航路

バングラデシュとインドは、今年の終わりまでに非深海船を使って新しい航路を開こうとしている。早ければ10月14日にもテスト航海を始める予定だ。外交官筋によると、予定されているルートを使って船舶輸送のための標準実施要綱の合意に近づいている。この航路を使えば輸出入の費用が少なくなり2国間の貿易が改善される。インドは西及び南西インドからのバングラデシュへ(及びその逆)の輸送がより安く早くなることに興味を持っており、バングラデシュはその代わりに莫大な外貨の収入と雇用機会が増えることを期待している。現在直行輸送がないためにダッカとニューデリーは60億ドル以上という両国間の貿易に費用の掛かる陸路を使っている。概算によると海路輸送を使えば輸送費用を鉄道や道路輸送に比べ20から40%減少させることができる。運輸省関係者によると1972年の水路議定書の下でバングラデシュとインドが半々に船舶を使うこと規定があったのだが、荷物を運んでいたのは98%がバングラデシュのものを使っていた。ここ2年間力の外交官レベルで海上運搬協定の決定について話し合いがなされており、この話し合いの結果としてまもなく試行運転が行われる。

6. ADB、鉄道改善のため1億ドルの融資準備

アジア開発銀行(ADB)はわが国の鉄道システムの輸送量、効率そして安全の向上に協力するため1億ドルの融資を準備することにした。マニラ本部に置いた貸し手と政府は水曜日経済関係局(ERD)でこれを有効にする融資取引に達した。この融資は鉄道部門等プログラムの下で鉄道システム全体を改善するために、ADBとバングラデシュの間で交わ

されたマルチ分割発行融資制度 4 億 3 千万ドルの第 3 分割発行である。この計画の下で ADB は、トンギーバイラブ・バザール・セクションのダブルトラック、ダルサナーイシュワルディーシラジュガンジ・セクションにある複数の駅のリフォーム、ヤード再生、ループの延長そしてイシュワルディとダルサナの 11 の駅の信号のアップグレードのため既に第 1、第 2 分割発行としてそれぞれ 1 億 3 千万ドルと 1 億 5 千万ドルを準備した。最後の分割発行は、鉄道主要ネットワークの 50 の広軌客車、100m の客車の注文ための金融援助にあてる事になっている。融資は猶予期間 5 年を含め 25 年満期であり、年間利率は ADB のロンドンインターバンクの利率ベース貸出規定に基づいて決定される。鉄道をアップグレードすればバングラデシュの主な輸出特に既製の輸出運搬経費を軽減できると ADB は語った。

7. トゥバ・グループ問題

①BGMEA、賃金支払いのための緊急基金を提案

トゥバ・グループの代表取締役デルワール・ホセインは、2012 年 11 月に 112 人の死者を出したタズリーン火災の容疑のため 2 月 9 日から刑務所に入っている。そのため労働者たちへの給与が未払いになっており、労働者たちは清算を求めてストライキに入った。この未支払い分を清算するために、バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会 (BGMEA) のリーダーと労働雇用省の国務大臣ムジブール・ホック・チュヌヌがダッカの BGMEA 事務所で、8/02、会議を開き、緊急基金の提案を行った。またその会議で、「我々はすでに労働者たちにワーキングデーの 7 日目までには支払いすると公約した。1,600 人に 3 か月分の賃金とイード・ボーナスを支払うには 4140 万タカ以上の金額は必要である。銀行からの融資や大企業からの基金に期待する」とチュヌヌ大臣が語った。それを受けて BGMEA とトゥバ管理部門は労働者に支払うために銀行の融資申請をした。しかし、グループの代表取締役デルワール・ホセインによる保証の提供ができず申請は拒否された。

その後、チュヌヌは報道者に、「労働者には 2~3 日の間に支払いがなされるであろう。しかし政府はトゥバ・グループのような民間会社の労働者には支払いはできないことになっている。だから労働者に支払いができるように衣料工場オーナー達に、基金を設けて対応するように呼びかけている。デルワールはイードの休暇の前には保釈されることになっており、裁判所からの彼の保釈令は刑務所当局に今日か明日にでも届くはずである」と語った。一方、トゥバ・グループの労働者たちは町に繰り出し、午前 11 ごろノースバッドにある工場の前の道を封鎖した。激昂した労働者たちは彼らへの未払い分が全て支払われるまでハンストを続行すると誓い、デルワールの保釈をキャンセルすることを繰り返して求めた。先週の月曜日に 100 人近い労働者は死を覚悟で断食を開始してから体調を崩している。約 80 人の労働者は点滴を受け、11 人は近くの診療所に運ばれた。

数百人の労働者と左翼党のリーダーたちはトゥバ・グループの 3 つのユニットが入っているプラガティ・サラニにあるホセイン・スーパーマーケットの前で座り込みをしている。トゥバ・グループ・サラミク・サングラム・コミティーの旗の下、抗議者たちは数時間に及びデモをした。座り込みの後、デモ行進をしようとして失敗した彼らは警察と乱闘となった。労働者のリーダーは、「政府と BGMEA は、労働者たちが他に選ぶ道がなくイードの間にハンストを行う状況に陥れたことに対し責任を負うべきである」と語った。バングラデシュ・コミュニスト党会長ムジャヒドゥール・イスラム・セリムは、「政府にトゥバ・グループの資産を取り押さえ、労働者たちに彼らの未支払い分を支払うべきである。デルワールには見せしめとなる処罰を要求する。労働者から賃金を奪い、何日間にもわたって断食させることは大量殺人にも近い」と言った。月曜日の夜から断食を続けている衣料労働者ユニットフォーラムの会長モシユレファ・ミシュの様態は、昨日悪化した。彼女はその場を立ち去ることを拒否したが、病院に運ばれた。

②BGMEA 基金、賃金受け取り期限を延長

8/06、BGMEA は、「トゥバ・グループの労働者が 2 ヶ月の賃金を受け取るまでの期限を、多くの労働者たちの要求があったので木曜日まで延期する」と発表した。BGMEA 基金は、労働者にカルワン・バザールにある本部に昨日午前 9 時から午後 6 時までの間賃金を受け取りに来るようにと伝えた。しかし BGMEA の賃金支払いは雨のため遅れ、結局午前 11:05 から始まった。BGMEA 当局は賃金支払いのスケジュールをノースバッド地域で、メガホンを使ってアナウンスした。タエブ・デザインリミテッドの 45 歳のオペレーターのベラル・ウッドインは、「私はここに自分から来た。誰も私に強制はしなかった。私は 5 月と 6 月分の賃金 14,000 タカを受け取った。でもまだ 1 ヶ月の給料とボーナス 11,500 タカが未払い分として残っている」と語った。結局、1,458 人の労働者のうちわずか 583 人しか彼らの賃金を受け取りに来ることができなかった。

バングラデシュ・衣料メーカー及び輸出業者協会会長アティクール・イスラムは、「多くの労働者は、陰謀をたくらむ人間が罪のない労働者とゲームを弄んでいて、労働者が賃金の受け取りに協会事務所に来ることができなかった。労働者たちはグループの 3 つの工場が入っているバッドのホセイン・マーケットに閉じ込められていたので、ID カードを工場から持ち出すことができなかったのだ」と語った。BGMEA チーフは、「トゥバ・グループの経営陣が、8 月 10 日に残りの月の賃金の支払いをする」と語った。

③早急な話し合い

トゥバ・グループで起きた出来事は、労働者が賃金の支払い問題に対して抱いていた不満から派生したひとつの事件を、国際的な問題へと発展させた典型的な例である。労働者たちの穏やかな集まりを、強制的に消してしまおうとした高圧手段が使われた結果、RMG 部門に再び国際的なスポットライトを当てることになってしまったのである。一晩にしてひとつの工場の激高した労働者が起こした出来事が、国際的な問題となり、それがRMG部門での労働争議拡大の脅威となった。トゥバ・グループの代表取締役が釈放された後に、彼が賃金の支払いとボーナスの問題に対し補償することができなかったことは、大きな問題である。国際バイヤーたちが、わが国の労働者の職場の安全に関し重大な関心を示めているとき、一つの工場で起きた事件を国際的な事件にしてしまうよりもっといい方法があったはずである。わが国の信用は傷付けられた。今は 迅速にトゥバ経営陣と労働組合代表を含め、全ての関係者を一同に集め、話し合いの場を持ち、政府と協力し状況を整理し、産業界全体に広がるような失敗にならないよう混乱を一掃させることが優先される。

④労働者リーダーの発言

アパレル部門の労働組合である衣料労働組合フォーラムの会長のモシユレファ・ミシュは、「トゥバ・グループの代表取締役デルワール・ホセインの保釈の取り消しを要求する。警察は、3 ヶ月の賃金とイードボーナスを要求してハンガーストライキをしていたトゥバ・グループの労働者を、抑圧した。もし我々の 6 つの要求が 8 月 16 日までに満たされないなら、8 月 17 日にシャハバグでデモを行い翌日バグダで労働者集会を行う。我々は労働者が職を取り戻せるようデルワールが彼の 5 つのユニットをできるだけ早く再開させることを要求する。もしデルワールが彼の工場を閉鎖するのなら、彼は法律に則り賃金を支払わなくてはならない」と記者会見で語った。

先にミシュは 1,600 人の労働者と共に、7月28日から 11 日間ハンガーストライキを行い未支払いの 3 か月分の賃金とイードボーナスの支払いを求めた。その後、衣料メーカーのプラットフォームであるバングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会とデルワール自身が 3 ヶ月分の賃金と残業手当の支払いをした。

⑤商務大臣、緊急基金の設立要求

商務大臣トファイル・アハメドは、バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会に、今回起きたトゥバ・グループの労働者賃金支払い危機のような危機状態から脱出できるように、緊急基金を設立するように求めた。協会は、トゥバ・グループ 1,417 人の賃金と残業手当を、オーナーのデルワール・ホセインに代わって支払いをした。ホセインは彼の土地と機械を売って必要な 1400 万タカを用意する準備をした。アハメドは、「現在のトゥバ・グループの運命はそのオーナーの手の中にある。もし彼が工場を再稼動することができるのなら、彼はそうするであろう。さもなければ彼は一時解雇を宣言し、わが国の法律に則り 4 ヶ月の賃金を支払わなくてはならない。一部の者たちがトゥバ・グループの状態から危機を作り出し、政治的に利用しようとしている」と述べた。運輸大臣シャジャハン・カンは、「衣料部門を崩壊させるために、陰謀が企まれている」と述べた。トゥバ・グループのオーナーは、「現在、未支払いになっているイード・ボーナスを後で労働者たちに支払う」と言っている。

8. RMG 労働者、ガジプールでデモ

8/03、ダッカ郊外、ガジプールのカリアコイル・ウボジラにあるセーター工場ホッチョング・BD リミテッドの既製服 (RMG) 労働者が、工場外に繰り出し、残業手当を請求してデモを行った。工場の労働者たちは、工場側が最近、残業手当の支払いを止めていると主張している。工場側が、8/03、賃金支払い時に、残業手当の支払いを行わなかったことをきっかけに、労働者たちは職場を離れ、工場の前を暴力行為を起こさず静かにデモを行った。

これとは別に、ガジプールの衣料工場マルチハブの労働者たちは、工場を破壊し、先日から行方不明になっている労働者の捜索を、工場側に当局に要求し作業を放棄した。衣料労働者メヘディ・ハサンは土曜日工場から行方不明になっている。スト参加者によると、前の週に解雇になったナジム・ウッディンという労働者が、メヘディの失踪の背後に関係している可能性があると言っている。彼らは日曜日工場の屋上に血痕を見つけ、ナジムは工場の屋上で殺害されたのではないかと疑惑を持っている。しかし工場当局では屋上の血痕は湿った赤土だと主張した。昨日労働者たちは工場にブロックを投げつけ、窓やドアを壊した。

9. RMG 労働者、アシュリアでスト

ダッカ郊外、アシュリアのベロンにあるヨギ・バングラデシュ・ガメント・リミテッド工場の約 1000 人の労働者は、工場側に彼らの 7 月分の賃金の支払いと労働者の解雇停止を要求し、作業を放棄した。労働者たちは昨日の朝マネージャーが 25 人の労働者を工場の中に入れていなかったため、作業の放棄を始めた。ミシン作業者のパルビーンは、「賃金を要求して土曜日にデモをしたので 25 人の同僚が解雇になった」と語った。デモを起こした人々は解雇された労働者が再び雇用され、彼らの賃金が支払われるまでデモを続けると言っている。アシュリア産業警察長官 Md.モスタフィズール・ラハマンは、「労働者たちには今日までに賃金が支払われることが確認されている」と語った。連絡を受けて、工場の役

員 Md. サイドゥール・ラハマンは、「労働者を解雇したわけではなく、イードの前にもデモを起こしているので一時的に出勤を停止させただけだ」と応えた。

10. カナダ高等弁務官の提言

カナダの高等弁務官ヒューザー・クルーデンは、「カナダの消費者は、バングラデシュの RMG 部門の労働者を搾取することは決して許さない。アパレルメーカーは、労働者の利権を守ることで、この部門の発展を確実にするようにしてほしい。カナダは RMG 部門でバングラデシュが発展することを望んでいるが、労働者の命と引き換えにするようなことをしてはいけない。バングラデシュは、2 国間の貿易を拡大させるために、カナダへの輸出品目の多様化も行うべきである。今後、バングラデシュにとっては人材派遣が最大のリソースになるので、技術のある労働者を育てるために、もっと職業訓練に投資しなければならない。カナダはバングラデシュが経済成長を達成するのに協力することに興味がある。」と語った。カナダはバングラデシュの衣料品も含め、多くのアイテムをカナダに免税で輸出することを既に許可している。バングラデシュの RMG 部門はチャンスを掴み、カナダへのバングラデシュ品目は輸出の大部分を占めている。バングラデシュの RMG 部門の労働者たちに対する安全を確実にするプロセスが、今、なされており、実際この部門は以前に比べはるかに安全になっている。

11. RMG 業界への学者や研究者からの提言

わが国はアパレル産業で働いている労働者の正しい数字と特徴を知るために RMG 戸口調査を行うべきであると昨日ダッカで有名な経済学者が語った。バングラデシュ開発研究機構(BIDS)の研究員ビナヤク・センは、市内で行われた会談で、「コンプライアンス問題を調べると同時に労働者たちの特徴を掴むために調査を行うべきである。これはアパレルメーカーにとって大きな利益をもたらすことになる。だから RMG 調査は BGMEA の年間計画に含まれるべきである。バングラデシュは国際基準ではなく、バングラデシュで受け継がれている労働者権利に従うべきである」と語った。

経済学者のホセイン・ジッラーは、「バングラデシュは、安い労働賃金という独特の有利点を利用し、他の競合相手より大いに進んでいた。しかし将来は熟練労働者力がこの産業では優位を占めることになる。だから今すぐ企業と政府はこの問題に本気で取り組まなければならない」と述べている。

ジッラーは、「BGMEA リーダーが、下請けがこの部門の脅威となると言いながらも、下請けを奨励した。10億ドル産業界が更に発展するために、よりよい厚生、生活そしてコミュニケーション、また労働者とオーナーのよりよい関係を築かねばならない」と話している。

アブダス・サラム・ムルシュディは、「バングラデシュは、背後の関連企業をもっと発展させればこれから 5 年間で 500 億ドルを稼ぐことができる可能性がある。しかし背後の関連企業を奨励するには土地、電気、ガス、水道そして経済援助が必要である」と語った。ファズルルール・ホックは、「アパレル・メーカーはインフラや交通網の不足のためこれに準備ができていない。わが国には輸出政策のような RMG 政策が必要である」と話した。

12. 輸出入書類などの処理をスピーディーに

BGMEA の第一副会長ナシルウッディン・アハメド・チョードリは、「チッタゴン関税証書委員会 (CCBC) で の証書関係ファイルをより速く承認する取り組みをすること。輸出加工地区 (EPZ) にある工場の下請け作業が直ぐに行われるように証書承認を行うために、年間会計報告、賠償債権のリリースの簡潔化、そして委員会での古いパソコンの取替えをすること」などを要求した。バングラデシュ衣料メーカー及び輸出業者協会 (BGMEA) のリーダーは、「わが国の衣料産業は試練の時を過ごしている。アメリカ発のアリانسそして欧州連合発のアコードの検査チームが、コンプライアンス関係の検査のため工場訪問をし、その後、多くの RMG 工場が閉鎖に直面している。力の弱い工場はこれらの検査チームの忠告にしたがい、工場局により閉鎖された。ガスや電気の供給不足だけでなく、産業が直面しているその他のインフラも不足しているために、バイヤーからの注文の流れも著しく落ちた」と語った。そして彼は、RMG ビジネスが不必要な困難に直面しないよう、職員にファイルをできるだけ速くリリースするよう指示した。さらに彼は職員に衣料産業の会計報告の更新を急いでするように要請し、アコードとアリانسによる検査で閉鎖された工場の移転のための全面的な協力の拡大を求めた。

以上